

# 能登町文化財レスキュー<sup>ニュース</sup>-News

第4号 発行日：令和6年5月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

## 「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

## 文化財レスキュー活動報告

### 【4月24日～ 被災仏像修復】

時長の願成寺では震災により、<sup>そうちようてん</sup>増長天と呼ばれる像が破損したほか、住民から津波被害を受けた仏像が預けられていました。

これらについて、仏像文化財修復工房（新潟県田上町）の松岡誠一さんが、文化財レスキュー事業の一環として応急処置をしてくださいました。

津波被害を受けた<sup>あみだりゅうそう</sup>阿弥陀立像は、像本体に損傷は少なかったものの、津波をかぶって砂が付着し、台座や<sup>こうはい</sup>光背が壊れた状態でした。松岡さんは、どの部材がどのように組み合わさっていたのか、足りないパーツがないかなど入念に確認した後、砂などの汚れをハケで丁寧に除去しました。その後、木くずを混ぜ合わせた接着剤で固定していき、足りないパーツは応急的に木材を切って補い、像が立っていられる状態にしていきました。増長天像は落下して腕と光背が取れていたため、元のように固定していきました。



願成寺で阿弥陀立像修復の様子



弥勒院の弥勒菩薩坐像修復の様子

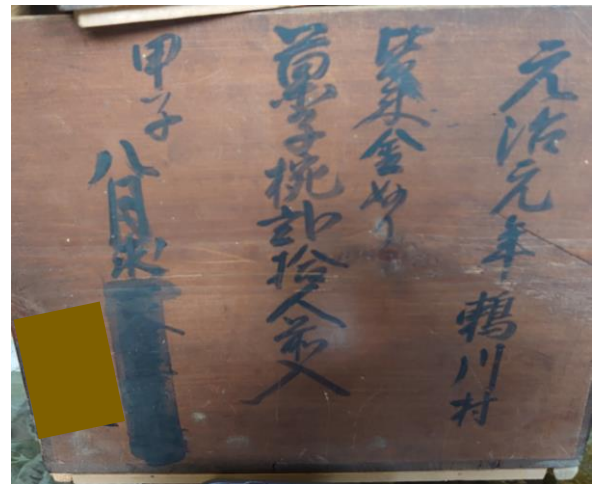
松岡さんによると、阿弥陀立像は光背が透かし彫りのようになっていることから、江戸時代初期～中期ごろのもの、増長天像は平安時代に地元の仏師によって造られたものではないかということでした。

この日から数日かけて、町内の寺院で応急処置作業が実施されました。今後も、町内の仏像などの修復に携わっていただく予定です。

## 年月日を書く習慣

筆者の大正生まれの祖父は、新しい冷蔵庫を買った時、ガムテープに購入年月日を書いて扉の隅に貼り付けていました。今では、そういうことをする方はあまりいないと思いますが、昔の人は豆に年月日を書いていたのだと思うことがあります。

例えば、被災した土蔵を整理していた町民の方から、木箱になにか書いてあるから見て欲しいと連絡がありました。お宅を訪問すると、漆器が保管されている木箱の蓋の表側に「元治元年(1864年)鶴川村 皆朱金ぬり 菓子椀ふた拾人前入 甲子 八月求」と書かれたものや、木箱の蓋の裏側に「天保十四年(1843年)卯霜月吉日」と書かれているのを見つけました。いずれも江戸後期の年号が記されているケースで、こうした年代が書かれていると作製された時期が判明し、資料的な価値も増します。所有者の方に内容を説明し、大切に保管していただくようお願いしました。



漆器と箱書き

## 漆器を活用する取り組み

文化財レスキューの際には、多くの漆器類を目にします。昔は、祭りの「よばれ」や「直会」<sup>なほらい</sup>で使っていたのですが、今では仕出しを利用するなどして、しまい込まれていることが多くなっています。そのため、所蔵者からは、「破棄する」または「別の引き取り手がいないか」との声が聞かれます。町としても大量の漆器を引き取って保管することは、保管場所も限られているため難しく、江戸時代のものなどに限らざるを得ない状態です。

そんな折、一般社団法人・能登地震地域復興サポート\*が、古い漆器を引き取り、必要な方へ譲る活動をはじめられました。文化財レスキューに関する問い合わせを受け、町教委担当職員が現場を訪問。その際に漆器類が確認され、所有者が破棄または譲渡を希望されている場合、能登地震地域復興サポートへ情報提供をおこなうこととしました。また、同サポートの活動の中で歴史資料等を発見した場合は、町教委へ情報提供をおこなうこととしています。



本紙は町 HP からも見ることができます

[https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common\\_id=20872](https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872)